

まだまだ変わる「トイレ空間！」

平成18年12月1日発行（毎月1回1日発行）  
第7巻第12号（通巻76号）  
平成12年10月5日第3種郵便物認可

# Memo

12  
DEC.2006  
定価550円

メモ 男の部屋

◎特集  
もう常識、トイレをひとつの  
部屋として考える

トイレと空間  
小さな  
快適空間。

◎空間づくりから家具を紡ぐ

建築家が考えるインテリア空間

◎人間はどういうわけに高い場所に登りたがる

東京のてっぺんを歩く

◎個性的なキヤラクターをもった住居

ドーム住宅というかたち

◎小泉誠の仕事場訪問

こいずみ道具店

◎時が止まって 滋賀県高島市新旭町

川端 かなで 向きをころう生水が湧く町

◎鈴木明の「男の文の家」 兵士の給食 〇おぼろげなコース

小さくて快適な  
「サティス」の空間化

「無のようであるが、混在のようである空間」をテーマとする大塚氏が、「サティスカラーズ」から発想を広げていくトイレ空間とは？

「日本の住宅の中では、トイレのスペースはどうしても狭く、限られたものになつてしまいがちです。狭いからといって、全体を白くして少しでも広く見せようとしても限界があります。逆効果の場合もあります。タスクレスで省スペース設計の「サティス」は、狭い空間を有効かつ快適に活かせるという機能性を備えています。さらに一歩踏み込んで、「サティス」の「小さくても快適」というデザイン・コンセプトをトイレ空間全体に広げていく発想もあると思ふんです。空間デザイン面から言えば、たとえばスポーツ的な照明の使い方であったり、区切り感を感じさせない床のデザインであったりするわけです。色使いももちろん大切なファクターです。今回の「サティス・カラーズ」の再登場は、その意味でトイレの新しい空間づくりの発想を広げるいいチャンスになったと思ふます。色を空間デザインに効果的に活か

すことで、視覚的な広さも演出できるし、また色使いによる遊び心で、使う人の心に余裕や豊かさを生み出すことができるはずなんです。」

「具体的に言えば、「サティス・カラーズ」の場合、2色もしくは3色使いのデザインで、とても色のアピール力が強い。だからその色がいちばんきれいに見えるステージを用意するべきだと考えます。「サティス・アステオ・カラーズ」は、色使いの面積の広さがポイント。色の魅力を活かすためには、手すりなどトイレ以外の設備とのグラデーションによるカラー・コーディネートを目指せば、自然に色の力を引き出すことができます。僕らは空間へ色を使うことには大好きなんです。たとえばピンクをテーマにした空間をプロデュースする場合、鏡部分にも半透明のピンクのフィルムを貼ってみたり、そうすることで光の回り方やリフレクションで浮遊感と透明感のある空間が生まれたりするわけです。モノトーンの空間でも、白や黒の艶や風合いの違いで、「色」を演出していくことが多いですね。店舗やギャラリーなどのパブリックスペースだけでなく、プライベートな空間でも色はもっと自由であるべきです。」

「サティス・カラーズ」メインインテリアデザイナー  
空間を  
「コ」ディネイトする  
可能性を探る。

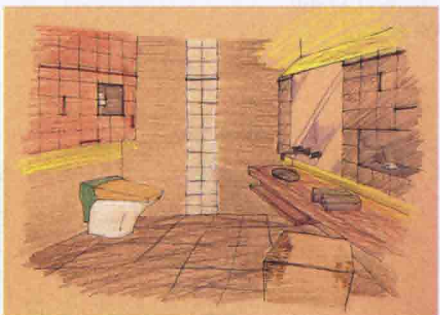
モザイクタイルのバタリデザインから最先端のブティック、ギャラリーまで幅広い分野で活躍する  
鋭いデザイナー、大塚則幸氏。  
「サティス・カラーズ」を核とした大塚氏ならではの  
独創的な発想から  
新しいトイレ空間の可能性を探る。



大塚氏が手掛けたマンションのリノベーション「F邸」のトイレ・バス空間。伊豆の青石張りの壁面と檜葺きの天井というモトーン感覚が和モダンのイメージを醸し出している。写真：平井広行



急増中の都会的なバス施設のパウダールームに隣接されたトイレをイメージ。グリーングラデーション効果により、癒しの空間をさらに落ち着いたある雰囲気。



ホテルの中にあるような洗練された和食のレストランのトイレ・スペースをイメージ。「サティス・カラーズ」は漆盆の上の和菓子のよう。床、壁ともモダンな和のテイストでまとめられている。



インテリアデザイナー  
大塚則幸氏

株式会社大塚ノリユキデザイン事務所代表。1960年、福井県武生市生れ。1990年、大塚ノリユキデザイン事務所設立。13th NGKデザインコンテスト入賞、商環境デザイン賞'93奨励賞、ナショナルライティングコンテスト'93入賞など。

色がもっと自由になれる  
空間を創造していくこと



もう一つ、トイレという  
小さな  
快適空間。

取材協力/アソーンアンドアソシエイツ  
☎03-5411-0336